



こーひーぶれいく

ラテンアメリカへの旅

村上 修一

Murakami Shuichi

筆者の専門は物性理論ですが、国によって物性物理の中のどの研究分野が盛んかはかなり違ってきます。物性物理の中で筆者の専門分野の1つがスピントロニクスで、固体中の電子スピン輸送を扱う分野ですが、ラテンアメリカで比較的盛んです。この分野で顕著な業績を上げた研究者が祖国に戻り後進を育てる形で、スピントロニクスが盛んになっています。

そのため筆者はラテンアメリカの国に知り合いがいて、研究会に呼ばれたりします。地球の真裏なので2,3回乗り継ぐ必要があり、片道1.5日以上かかります。遠いので出張をためらう研究者も多いですが、筆者は旅行が好きで、機会があれば断らず行くようにしています。最近では南アメリカの国々で、数年おきにスピントロニクスの研究会のシリーズがあり、著名な研究者が集まる研究会です。筆者も今までペルー、アルゼンチン、エクアドル（ガラパゴス）と参加してきました。

日本から南米はやはり遠いので、食べ物・飲み物等も馴染みがあまりないものが多く、新鮮な発見があり出張の楽しみの1つです。例えば今年行ったエクアドルでは、パタコネスと呼ばれる、甘くない青いバナナをつぶして揚げたものが副菜としてよく出てきます。食感や味はフライドポテトのようで、知らないとバナナとは気づきません。

飛行機で行くときの経路は毎回悩みます。北米経由かヨーロッパ経由があり、ブラジルに行くときはこれらの所要時間はほぼ同じです。そのため経由地の選択肢が豊富で、現地では「どこを経由して来ましたか？」という話題で盛り上がります。フライトから国々の歴史や状況が見えてきて興味深く、旧植民地と旧宗主国は今でも関係が深いことが分かります。例えばブラジルにはポルトガルから便が多く、



写真 ガラパゴスゾウガメ

またスペイン語圏の国々はスペインから多く飛んでいるといった具合です。

海外出張で飛行機はトラブルの元で、遅延したり荷物がなくなったりは日常茶飯事です。特に南米等遠方になると2回以上の乗り継ぎになり、遅延して飛行機を乗り継げないと影響が大きいので、かなり余裕を持たせて乗り継ぐことにしていますが、乗り継げなくて予定外に1泊した経験もあります。

時には変わった体験もあります。以前、南米から帰国する際に、最初に乗る便が遅れて乗り継げなかったにもかかわらず、予定より早く帰国できたという体験をしました。ブラジルのナタールに行ったとき、サンパウロ、ニューヨーク経由で東京に帰る予定でした。しかしサンパウロ行きが遅れて夜11時に到着し、もうニューヨーク便は出たあと、ということがありました。ニューヨークに行けない人でごった返すサンパウロ空港。すると「ニューヨーク以外が最終目的地の人はいるか？」と係員の呼びかけ。東京に行くと言って手を挙げると、「パリ経由はまだ便があるぞ！」とのことで、北米経由のはずがフランス経由で帰国しました。なお偏西風の影響でフランス経由の方が北米経由より所要時間が短く、当初の到着予定時間より1時間半早く帰国できました。

海外出張は面倒ではありますが、海外の知り合いに会えて有益な議論もできますし、いろんな国での様々な発見もあって、毎回充実した体験ができる貴重な機会だと思っています。

（東京大学大学院工学系研究科、東京科学大学理学院、広島大学 WPI-SKCM²）

〔2024年度仁科記念賞受賞者〕